

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

「水煙に打ち勝った勝利」

2019 ARTA DIGITAL Rd.1 OKAYAMA
OUR VICTORY CAN'T BE RAINED OFF



2019年のスーパーGT選手権の開幕戦決勝スタートを前に、岡山国際サーキットの空は泣き出した。各マシンがスターティンググリッドにつく頃には雨がさらに強くなり、レースはセーフティカー先導で行なわれることになった。

GT500クラスを戦う8号車ARTA NSX-GTをドライブするのは伊沢拓也で、前日の予選ではセットアップが決まり切らない中で野尻智紀が奮闘し手にした5番グリッドからスタートする。

GT300クラスを戦う55号車はマシンを刷新しARTA NSX GT3として戦う。予選ではヨーロッパ修行から帰ってきた福住仁嶺が緊張の中でポールポジションを獲得してみせた。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



Rotec | Taisei Rotec | Taisei Rotec | Taisei Rotec





土屋圭市エグゼクティブアドバイザー「仁嶺だけが（1分）24秒台。2番手は25秒3だよ」

福住「どう？ポール？」

一瀬俊浩エンジニア「大丈夫、ポール」

土屋「仁嶺、ポールだよ」

福住「やったー！嬉しい～！スッキリした～！」

そのポールポジションからベテラン高木真一がステアリングを握って決勝に臨む。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

雨はますます強くなり、スタート直後からコース上の水量はレース走行が難しい状況になりつつあった。伊沢「(内圧) 少し下げすぎててグニャグニャしてる。コンディションにもよるけど第2スティントはあまり下げ過ぎると走りにくいかもしれない」

星学文エンジニア「了解」

その矢先、1コーナーで後続のGT300クラスによる接触事故が起きて早速セーフティカーが導入される。それでも ARTA は冷静にレース後半を見据えて戦略を話し合っていた。

PIT「SC 入ります、1コーナーでイエローです」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ARTA

ARTA

ARTA

AUTOBACS

mecha

伊沢「雨はさっきから強くなってる？」

星「ストレート上は強くなっているね」

伊沢「川ができていからソフトタイヤでも良いかも。その後の降り方にもよるけど」

星「こんな風に何度も SC が出るだろうからタイヤは換えずにミディアムでいってミニマムでピットインしてタイヤ交換しなくても良いかなと思う」

伊沢「タイヤ交換の必要がありそうなら、ピットインのときに路面の状況を伝えます」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

一方、55号車の高木はミッドシップ車両ゆえにこの雨でフロントタイヤがなかなか温まらず、2番手の96号車をドライブする新田守男に追い立てられていたが、ひとまずセーフティカーに助けられたかたちだ。相手はスーパーGT最多勝利記録を競うベテランだ。ARTA NSX GT3は新車だけにウエットコンディションでのセッティングデータがなく、苦しい戦いを強いられる。

高木『フロントの温まりが全然違うな。新田さんは速えや！』

一瀬「SC入ります。高木さん、雨が増えてきています。2コーナーの先は気をつけてください、そろそろ川ができると思うんで」

高木「さっきまで温まっていたのに、また冷えちゃったよ」

一瀬「ここから25分は雨が続きそうです。そこから20分ほどやんでまた強い雨が来そうです。ブレーキを引きずってフロントを温めていってください。それで温まると思います」

高木「了解、やってるよ〜」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

5周でレースは再開となったが、高木は11周目にターン2でコース上の水に乗ってバランスを崩し、新田に先行を許してしまった。

高木「2コーナーで水に乗っちゃった……」

一瀬「了解、まだ先は長いから大丈夫ですよ」

土屋「大丈夫だよ真一、ついていけば勝機はあるから」

一瀬「後ろのクルマは2秒以上遅いから大丈夫、ついていこう」

高木「2コーナーは結構ヤバかった。アウト側の雨ラインを通ったら水に乗って新田さんにやられちゃった。仁嶺は2コーナーのアウト側を通らないようにした方が良いね。みんなが通ってるラインを通った方が良い」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

高木は次にステアリングを握る福住のために生のコースコンディションを伝えアドバイスを送ることも忘れなかった。

しかしレースが再開されてまもなく再びクラッシュ発生。今度は2コーナー先の緩やかなS字でGT300クラスのマシンが飛び出し、バリアに跳ね返って来たマシンに後続車両が追突するという多重事故が起きてしまった。ドライコンディションならなんの変哲もない全開区間だが、アクアプレーニング現象が起きてマシンが水に浮き、ドライバーはすることもできずにコントロールを失ってしまうような状況だった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



一瀬が慌てて高木に無線で伝えて注意を促す。

一瀬「モスSで大クラッシュしているので気をつけて通ってください。タイヤとか破片がコース上に散らばっているから気をつけて。SCが入りました」

高木「タイヤが温まれば新田さんについていけるかも」

土屋「大丈夫だよ、まだレース序盤だから。全然イケるから心配するな」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

コース上は水量が増えて非常に危険なコンディションとなり、8号車をドライブする伊沢は12号車を抜いて4位に上がっていたが即刻赤旗を出すべきだと無線で訴えていた。

伊沢「こんなのSCじゃなくて赤旗だよ！」

星「雨量が多いから気をつけてね」

伊沢「絶対赤旗！SCじゃないって！」

星「了解、了解」

レースコントロールからは赤旗が提示され、全車がメインストレート上に並んでコンディションの回復を待つことになった。

星「赤旗中に許されている作業はドライバーの乗り降りとシートベルト脱着の補助、無線の装着、ドリンクとクールスーツの接続、日よけや雨よけの設置、窓拭き、くもり取り作業、そこまでです。今回は車両の冷却だけはOKになっています。それ以外は禁止です」

エンジニアの星は作業違反を防ぐためにチームスタッフに向けて的確に指示を送る。

その一方でレース再開後とその後の展開を睨んだ戦略を考え、伊沢と相談することも忘れなかった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

星「今の状況だとまた雨が来て赤旗になってそのままレース終了になる可能性があるんで、できるだけ引っ張っておいた方が
良いかなと思ってます。その場合はピットイン（義務を消化）していなくても大丈夫なので」

伊沢「赤旗の場合はそれで良いけど、SCの場合は損する可能性があるんじゃないの？」

星「そうだね、SCの場合は損する可能性がある」

伊沢「まあその判断は難しいだろうけど。また雨粒が大きくなってきたよ」

星「そうだね、さっきほどじゃないけど強くなってきてる」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

約 45 分後にセーフティカー先導でレースが再開。しばらくの先導走行の後にセーフティカーが解除され、伊沢は前の 23 号車を抜いて 3 位に浮上する。

しかしコース上は水量が多くて視界も厳しく、マシンをコース上に留めるだけで精一杯のコンディションになっていた。視界が乏しく危険だと訴える伊沢の目の前で、トップの 1 号車に 17 号車が追突し NSX 勢同士の接触で 1 号車がコースオフするという事態になっていた。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

星「前2台についていこう」

伊沢「ちょっとこれ雨が多いよ、これ」

星「了解、今ストレートも雨が多いね」

伊沢「マジで前が見えないよ！本当にもうヤバいって！」

星「あぁっ！前でクラッシュしてるよ！」

伊沢「もうダメだって！もうダメ！」

PIT「SC入ります」

再びコースコンディションは最悪の状態になりつつあった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

STYLO

T.Nojiri

T.Izawa



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

55号車をドライブする高木もコース上の水量の増加をレポートし、危険性を訴えていた。

エグゼクティブアドバイザーの土屋も安全に走るように高木にアドバイスする。

高木「モスSは水が溜まってきてるね」

一瀬「メインストレートは雨が強くなってきてます」

高木「結構雨量がヤバい」



一瀬「了解、了解。メインストレートは一気に強くなったから気をつけて。1コーナーイエロー、SC」

高木「これは結構多いね、この雨量は」

土屋「真一、生き残りレースみたいになってきちゃってるから。みんな2コーナーの先でハイドロ（プレーニング現象）で飛んでっちゃってるから気をつけよう」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



GT500 クラスは先頭を走っていた1号車が接触によって飛び出したことで首位は17号車に代わり、伊沢は2位に上がった。17号車に接触の責任ありと判断されればペナルティが科され8号車に首位が転がり込んでくる可能性もあった。セーフティカーに先導されながら、伊沢はレースを中止にすべきだと訴えていた。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

伊沢「このサーキットでこんだけ雨が降っちゃうともうレースにならないよ！」

星「ちょっとこれは危なすぎるね……。モスSでオイルが出ています、気をつけて。17号車が1号車を押し出すかたちになっているから、もしかすると17号車にペナルティが出るかもしれない」

伊沢「ぶつかったの？」

星「ブレーキングで後ろから当たってるからね」

伊沢「どっちにしてもこの雨じゃ無理だよ。走っても誰かが犠牲になるだけだよ。こんな光景は何回も見たくないよ」

星「了解、中止にしろって言っているところだよ」

伊沢「もうクルマを振るのも怖いんだよね。再スタートしたら大変だよ」

星「とにかくSC中は安全に今のポジションだけキープしよう。亜久里さんからも『安全に走ってね』って」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



再び赤旗が提示されてレースは中断。コクピットの伊沢だけでなくピットのチーム関係者たちにも状況が厳しいことは明らかで、レース中止に向けた話し合いが始まっていた。鈴木亜久里監督がコントロールタワーに行き、全チーム監督ミーティングの末にレースの赤旗終了が決まった。

結局レースは31周終了時点で終了。野尻、福住にドライバーチェンジをする前にレースは終わってしまった。しかし彼らの予選でのヒカル走りがあったからこそ、決勝で2台が上位の好ポジションでレースをすることができ、水煙に包まれるウエットコンディションではこれが大きなアドバンテージになったこともまた確かだった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ARTA

ARTA 55

AUTOBACS
8
zf.com/jp

HONDA
Panasonic
CVST
BRIDGESTONE

PIT-PRO
BRIDGESTONE
POTENZA

WORK
ProStaff
amazon



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

亜久里監督はこの難しいコンディションでマシンをコースに留めたドライバーたちをねぎらった。「お客さんには申し訳ないと思っておりますが、天候だけはどうにもならないですし、ドライバーのことを考えるとこのレース中断の判断は良かったと思います。このコンディションでコースに留まること自体が大変なのに、ドライバーは本当によく頑張ってくれたと思います」

レース終了後、17号車にはドライブスルーペナルティとして34秒加算のペナルティが科され、8号車が繰り上がり優勝となった。GT300クラスは55号車が2位のままフィニッシュ。悪天候による不完全燃焼のレースだけに後味の悪さが残りはしたが、ARTAにとっては1位・2位という絶好の結果となった。難しいウエットコンディションに打ち勝って収めた勝利にはそれ相応の価値がある。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS

#1
OKAYAMA
INTERNATIONAL
CIRCUIT

WINNER
GT500 CLASS
2019 AUTOBACS SUPER GT
ROUND 1
OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT
14 APRIL 2019

Firelex

HONDA

AUTOBACS

Mobil

Panasonic

Holts

BRIDGESTONE

Coca-Cola

PIT-PRO

Firelex

HONDA

AUTOBACS

Mobil

Panasonic

Holts

CVSTOS

BRIDGESTONE

Coca-Cola

PIT-PRO

CVSTOS



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



STONE

Firelex

Honda
Autobacs
Castrol
EDL
Hol
COMTEL
KENWOOD
iroSta
imo

ARTA

Firelex

Bridgestone
Honda
Autobacs
Castrol
ARTA
KENWOOD
Rh+B S. TAKAGI



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

それと同時に 8 号車 ARTA NSX-GT も 55 号車 ARTA NSX GT3 も、そのポテンシャルをフルに引き出すための課題も見えた。
それを解決するためには、次の富士まで休んでいる暇などない。

ARTA が目指しているのは目の前の結果に喜ぶことではなく、チャンピオン争いをする事だからだ。
しかしその目標に向かって多くのものを手に入れることができた岡山の週末だったこともまた確かだった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

KENWOOD
BRIDGESTONE

Sparco



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



Panasonic
Mobil 1
Coca-Cola
Proton
Audi



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



株式会社オートバックスセブン

ARTA

THE "BIG RACE" FOR SUZUKI AGURI STARTED IN 1998
AS HIS VISION FOR THE FUTURE. OVER THE YEARS, IT HAS EVOLVED
THROUGH THE TOUGHNESS AND WILL OF ARTA. IN THAT SPIRIT,
ARTA IS RACING TO INSPIRE THE FUTURE OF MOTORSPORTS.



ARTA Project



ARTA DIGITAL You tube チャンネル

To Be continued next race...

ZERO
BORDER
Team ZEROBORDER

©2018 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA

Text : Mineoki Yoneya

Design : Hiroaki KATAYAMA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO., LTD